



「花見」起源・由来??? 「岡崎の桜まつり」縮小!?



春には、桜が各地で咲き誇ります。桜の花を愛（め）でながら、お酒を飲んだりお弁当を広げたり…、花見をするのが日本人の定番となっています。花見は、梅や桃など桜以外の花でも行われますが、主に桜の花に対して使われる言葉です。奈良時代に中国から伝来した梅を鑑賞するお花見が起源とされ、平安時代に嵯峨天皇が梅の代わりに桜を愛でる「花宴の節」を行ったことで、花見の花が梅から桜に代わったと言われています。この頃、花見は貴族の楽しみで、万葉集や古今和歌集には桜を詠んだ歌が数多く残されています。また、平安時代の庭づくりに桜は欠かせないものとなり、京都の寺社や山に桜が植えられたのもこの頃と考えられています。鎌倉時代にはお花見の習慣が貴族から武士に広がり、江戸時代には庶民の楽しみとして定着します。江戸時代には桜の品種改良が盛んに行われるようになり、江戸後期に染井村（現在：豊島区）の植木屋が「エドヒガンサクラ」と「オオシマサクラ」の交配種「吉野桜」を作りましたが、明治33年に、奈良県の吉野山の山桜との混同を避けるために「ソメイヨシノ」と呼ばれるようになりました。このソメイヨシノは、接ぎ木によって殖えるので成長が早く、明治時代以降、河川敷や公園、学校などに植えられ全国へ広がっていきました。

岡崎市周辺にも、人気の花見スポットが多くあります。露店があつたり、イベントが開催されたりする有名な場所だけではなく、小学校や公園など、桜が植えられている場所は多くあります。大勢で賑やかに花見するのもいいですし、静かな場所で静かに花見するのも素敵ですね。これからも毎年お花見を楽しむことができるよう、マナーを守って桜を愛でたいものですね。

徳川家康公が生まれた岡崎城跡を整備した公園で、復元された3層5階の天守閣がそびえます。園内にある桜は主にソメイヨシノで、岡崎公園とその周辺に約800本の桜が咲き誇ります。岡崎城天守閣を彩るように、桜が咲き誇る岡崎公園は「日本さくら名所100選」にも選ばれた東海地区屈指のお花見スポットです。夜はライトアップされた桜に天守閣が浮かび上がり、昼間とはひと味ちがう幻想的な雰囲気が楽しめます。桜まつり期間中には、多くの露店が出店し大いに賑わうほか、メインイベントの家康行列では、徳川家康公役に俳優「佐野 岳」さんを迎えるなど壮大な歴史時代絵巻をお楽しみいただけます。（令和2年度中止）



○奥山田（岡崎市奥山田町）○幸田文化公園（幸田町芦谷）○源空院・宿縁寺（西尾市西浅井町）○黄金堤（西尾市吉良町）○安城公園（安城市桜町）○瑞龍寺（豊田市稲武町）○愛知県緑化センター（豊田市西中山町）○大安寺（豊田市大野瀬）○水源公園（豊田市水源）○亀城公園（刈谷市城） ……など